

令和2年7月8日(水) 第9号



いじめについて考える【前編】



臨時休業のために延期されていましたが、7月6日(月)は大阪市の「いじめについて考える日」でした。放送による全校集会で校長先生のお話を聞いて、そのまま1時間目の道徳で「いじめ」に関する読み物教材を読み、各クラスでいろいろと考える時間になりました。今週の学年だよりは、毎年話している内容を再掲します。いじめなどの人権問題は「これだけ考えたから終わり」というものではありません。いつでも“アンテナ”を張っておく必要があります。



私たちは、誰もが「いじめはいけないものだ」と頭では理解しているはずですが、しかし、その一方では、心のどこかで「自分には関係ないことだ」、「関係ないことであってほしい」と思っているのではないのでしょうか。そう考えるとこそ“心の隙”が生じ、いじめの“第一歩目”を踏み出してしまったり、見逃してしまったりするのです。私たちは、常にいじめについて考え続けなければなりません。今日はそのきっかけのひとつです。まずは、私たち人間の「脳」の話から始めましょう。



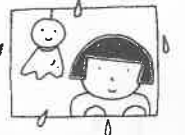
人間の脳は、3つの層で成り立っています。いちばん内側は「**脳幹**」という部分で、**呼吸をする**・**食べる**・**眠る**・**排せつをする**などの命令を出す層です。この部分がないと、人間は生きていくことができません。ヘビなどの爬虫類にもある層で、【**ヘビの脳**】と呼ばれます。2番目は「**旧皮質**」という部分で、**喜ぶ**・**怒る**・**悲しむ**などの命令を出す層です。この部分がないと、喜ぶ・怒る・悲しむ、といった感情活動ができなくなります。哺乳類全般にある層で、【**ネコの脳**】と呼ばれます。3番目(いちばん外側)は「**新皮質**」という部分で、これは、たくさんの哺乳類の中でも、私たち人間だけにある部分です。つまり、**考える**・**覚える**・**話す**などの命令を出す層です。この層は、人間だけにあることから【**ヒトの脳**】と呼ばれます。これらの3つの層がうまく働くことで、私たち人間は、元気に生きていくことができます。逆にいえば、「**脳幹(ヘビの脳)**」、「**旧皮質(ネコの脳)**」、「**新皮質(ヒトの脳)**」のうち、どれか1つの層でも働きが鈍ると、元気に生きていくことができなくなります。



《裏面の「後編」に続きます》



いじめについて考える【後編】



- ◆ **脳幹**【ヘビの脳】＝ 呼吸をする・食べる・眠る等の命令を出す部分。
- ◆ **旧皮質**【ネコの脳】＝ 喜ぶ・怒る・悲しむ等の命令を出す部分。
- ◆ **新皮質**【ヒトの脳】＝ 考える・覚える・話す等の命令を出す部分。

ここまで、私たち人間の「脳」の構造を紹介してきましたが、「いじめ」という行為は、前述した「脳の3つの層」のうち、ある部分を真っ先に攻撃します。どの層だか分かりますか？ そういうことを専門的に研究した結果により、「いじめ」は**真っ先に【ヘビの脳】を攻撃する行為**だと分かってきました。【**ヒトの脳**】を攻撃してその人の「考える力」や「話す力」を奪うのではなく、また、【**ネコの脳**】を攻撃してその人の「喜ぶ力」や「怒る力」を奪うのでもないのです。つまり、「いじめ」は、真っ先に【**ヘビの脳**】を攻撃してその人の「呼吸する力」や「眠る力」を奪う、すなわち、あらゆる動物が本能的にもつ「**生きる力**」・「**生きたいと思う意欲**」を奪う行為なのです。そして、その結果として、「喜ぶ力」、「怒る力」、「考える力」、「話す力」など、私たちからあらゆる“力”を奪います。「いじめ」という行為がいかに恐ろしい行為であるか、わかるのではないのでしょうか。



考えてみれば、私たち人間以外の動物の世界にも「いじめ」はあります。たとえば、**ほえたり威嚇したりするなどの暴力的な行為で仲間を攻撃してグループから弾き出す**、などといった行為がそれです。それは、動物の本能から出てくる行為なので、動物の世界では「仲間を攻撃する行為」・「いじめ」はなくならないと思います。しかし、動物の本能であれば私たち人間にも備わっています。では、私たち人間の世界でも「いじめ」はなくならないのでしょうか？ 答えは「ノー」ですね。

私たちは人間だからこそ「いじめ」をなくすことができます。なぜなら、私たちには【**ヒトの脳**】があるからです。前述したように、【**ヒトの脳**】とは、「考える」・「話す」といったことを可能にする脳です。つまり私たちは、【**ヒトの脳**】を使って「いじめ」行為のずるさやカッコ悪さなどについて、仲間と共に「考え」、「話し合う」ことができます。そうです、「いじめ」をなくすためには【**ヒトの脳**】が必要なのです。そう考えると、「いじめ」をなくせるのは「人間」だけかもしれません。「いじめ」について考え続けることは、私たちが「人間」であることの証であるといえそうです。

保護者のみなさまへ

今回の学年だよりは「いじめ」に関する内容を扱いました。集団生活の場である学校では、「いじめ」問題について、加害と被害との両面において「自分にもあり得る問題だ」という意識を常にもっておく必要があります。たとえば、体調管理の難しい梅雨の時期は、心と体の調子が不安定になり、生徒間のトラブルも発生しやすい時期といえます。やはり、加害と被害の両面で、どの生徒も関わる可能性があるのです。どうか、ご家庭でも「自分にもあり得る問題だ」という発想で考えていただき、何かお気づきのことがありましたら、早めに学校(担任)までご連絡ください。

